

平成 28 年度
知床国立公園羅臼海域における海鳥の分布
調査等業務



平成 29 年 3 月
環境省釧路自然保護事務所

目次

1. 業務概要	
1-1. 目的	1 p
1-2. 業務内容	1 p～2 p
2. 業務結果	3 p～39 p
2-1. 海鳥の分布調査	3 p～31 p
2-1-1. 調査地点の選定	3 p
2-1-2. 陸上からの海鳥調査結果	3 p～31 p
<調査範囲>	3 p
<調査方法>	3 p～4 p
<調査結果および考察>	5 p～21 p
1) 各鳥種についての各論	22 p～29 p
2) 調査期間における海鳥の全体的な動向	30 p～31 p
2-1-3. 海上からの海鳥調査	32 p～41 p
<調査範囲>	32 p
<調査方法>	33 p
<調査結果および考察>	34 p～36 p
1) 各鳥種についての各論	37 p～38 p
2) 調査期間における海鳥の全体的な動向	39 p
2-1-4. まとめ	40 p

1. 業務概要

1-1. 目的

知床国立公園の海域は、北半球で最も低緯度に位置する季節海氷域であり、流氷の影響を大きく受けた特異な生態系の生産性が見られるとともに、海獣類のトドやアザラシ・鯨類のシャチやマッコウクジラなど多様な海棲哺乳類、南極や北極をはじめ北から南から飛来する海鳥類にとって世界的に重要な地域である。

知床国立公園内の羅臼町側の海域およびその周辺海域においては、ヒメウやウミスズメ・ケイマフリ・ウミガラス等絶滅危惧種も生息しているが、分布状況や個体数については、十分に調査されていない。

また、海中の漁業系ゴミに海鳥が絡まって死んでいる事例や、絶滅危惧種を含めた海鳥類の漁網への混獲が報告されているほか、海鳥等への餌付け行為も見られている等、海鳥に関する問題が生じている。

一方で、住民の海鳥への関心は低く、平成27年度知床国立公園羅臼海域における海鳥の分布調査等業務においても海鳥の保全と魅力を伝える情報が十分ではないとの意見があり、希少種を含めた海鳥の存在や景観上・種の保護上の価値について更に調査を進め、普及啓発する必要がある。

本業務は、地域住民の海鳥に関する理解を促進するための必要な海鳥に関する情報を得るため、海鳥の分布調査、観察のアドバイス、観察適地情報の収集等を実施するものである。

1-2. 業務内容

知床国立公園の羅臼海域（知床岬から峯浜町沿岸）における海鳥の分布状況を把握するため、環境省担当官、①の調査者と調整のうえ調査計画を作成し、以下①②の調査等の実施及び調査結果の取りまとめを行った。調査日は調査の実施に適した日（天候が良い日等）とした。調査にあたっては、海鳥の営巣・繁殖に影響を与えないように細心の注意を払うこととした。

なお、調査にあたっては、環境省提供の調査用紙を用いた。調査項目は、次の項目を基本とし、環境省担当官、①の調査者と調整の上決定した。

- ・ 調査時刻
- ・ 海水温、気温、天候、風向、風速、波高（インターネット等で調査も可）
- ・ 種（雌雄、幼鳥、エクリプスの可否等可能な限り詳細に）
- ・ 希少種（絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律に基づく国内希少野生動植物種、鳥獣の保護及び管理並びに狩猟の適正化に関する法律に基づく希少鳥獣、環境省及び北海道レッドリストに登録された種等）としての登録区分
- ・ 個体数
- ・ 海鳥を発見した場所、観測した場所

- ・ 観察のしやすさ（見つけやすさの難易度や、観察のアドバイスも含む）
- ・ 海鳥の特徴的な行動等のその他特記事項

① 鳥類の分布調査

羅臼町内の海域（相泊～峯浜町）及びその沿岸において、海鳥分布調査を4月～3月の間、月2回（ただし、4、3月については月1回）実施した。

また、調査に当たっては、知床国立公園及びその近隣海域における調査の経験及び鳥類の分布等の知識を有する者（以下、「調査者」という）を1名、海鳥の調査経験を有する調査補助者を1名配置した。

② 船舶を用いた鳥類の分布調査

羅臼町内の海域（知床岬～相泊沖）及びその沿岸において、海鳥分布調査を6、8月に月1回、7月に月2回実施した（調査回数は悪天候及び土砂崩れによる通行止めのため、環境省担当官と協議して仕様から変更した。）。調査者を、①と同一の者を1名、海鳥の調査経験を有する調査補助者1名を配置した。調査地点までは船舶を用いて移動し、陸上又は船舶上から調査を行った。使用する船舶は環境省担当官及び調査者と調整の上請負者が手配した。

2. 業務結果

2-1. 海鳥の分布調査

2-1-1. 調査地点の選定

平成 27 年度の調査結果を反映した上で調査地点を選定した。

地点については、羅臼町内の海域（峯浜沖～相泊沖）を以下の 15 区間に分けて作成した。

①峯浜（駐車帯）、②春日町（春苧古丹橋・消火栓春日 2）③麻布漁港、④松法漁港、⑤礼文（礼文・羅臼道の駅）、⑥羅臼港、⑦ロウソク岩（材木岩トンネル北出口）、⑧サシルイ、⑨天狗岩、⑩知円別（知円別トンネル北出口・知円別港）、⑪北浜覆道、⑫ルサ（ルサフィールドハウス・知床橋）、⑬昆布浜（熊岩）、⑭セセキ岩、⑮相泊（相泊港）

2-1-2. 陸上からの海鳥調査結果

<調査範囲>

羅臼町内の沿岸およびその海域（峯浜沖～相泊沖）。

<調査方法>

図-1～15 中の区域上で安全に駐車でき、また住民の生活の支障にならない場所を観察ポイントとした（図-1～15 の赤丸）。

なお、1 月以降は積雪のため、春日町（精進橋）麻布漁港・羅臼漁港屋上駐車場・北浜隧道は調査実施ができなかった。また、9 月 27 日以降は土砂崩れ通行止のためセセキ温泉と相泊地点は調査できなかった。

調査日の設定は、できるだけ天候の良い、観察に適した光線の良い日の午前中を選んで 5 月～翌年 2 月まで月 2 回、4 月及び翌年 3 月は月 1 回、陸上からの観察を行った。各調査日および調査時の気象条件については、陸上からの海鳥調査時の気象条件（表-1）に示した。

調査には、双眼鏡 10 倍と望遠鏡 20 倍～60 倍を利用し、見える範囲に出現したすべての海鳥、海棲哺乳類の種名、個体数を記録した。なお、気象条件等により観察条件は変化した。

各調査実施日にはその日の調査条件や調査の概要、特記事項を記入した日報（別紙添付）を作成した。調査条件のうち海水温など実地で不明であった事項は、日本気象協会のホームページから引用した。

表 - 1) 陸上からの海鳥調査時の気象条件

	日付	天候	波高	海水温	気温	風向	風速
1	4月27日	晴	1m	3℃	3.8℃	東南東	3.0m/s
2	5月22日	晴	0.5m	5℃	19.2℃	東南東	1.5m/s
3	5月28日	晴	1m	7℃	3.8℃	東	2.3m/s
4	6月24日	晴	1m	10℃	12.8℃	東南東	3.0m/s
5	6月27日	晴	1.5m	10℃	17.7℃	北西	4.9m/s
6	7月5日	晴	1m	13℃	11.4℃	南南東	4.6m/s
7	7月14日	曇	1m	13℃	16.3℃	東南東	1.6m/s
8	8月7日	晴	1m	19℃	21.4℃	東	2.8m/s
9	8月24日	晴	1m	20℃	22.8℃	南東	3.4m/s
10	9月4日	晴	1m	19℃	19.7℃	南東	2.7m/s
11	9月27日	晴	0.5m	17℃	18.4℃	南東	2.0m/s
12	10月13日	晴	1m	14℃	11.1℃	西	2.3m/s
13	10月23日	くもり	1m	13℃	5.3℃	南南東	1.7m/s
14	11月17日	くもり	1m	7℃	1.5℃	北西	2.9m/s
15	11月30日	くもり	1m	4℃	-2.3℃	北西	1.2m/s
16	12月19日	くもり	1m	3℃	-1.1℃	東南東	0.8m/s
17	12月29日	くもり	1m	3℃	-0.5℃	南東	1.4m/s
18	1月9日	くもり	1.5m	1℃	-1.0℃	北西	3.5m/s
19	1月26日	小雪	1m	0℃	0℃	東北東	1.2m/s
20	2月21日	晴	1m	-	-7.6℃	西	3.1m/s
21	2月28日	晴	0.5m	-	-2.3℃	東南東	1.9m/s
22	3月9日	晴	0.5m	-	0.5℃	北西	3.3m/s

*8月24日調査後、海岸町（サシルイ川右岸）にて大規模な土砂崩れが発生、道道87号線は通行止めとなった。

以降も降雨が予想されて二次災害のおそれあり、復旧メド立たず。しばらく調査は不可能。

*10) 9月4日、海岸町の通行止めは復旧、松法町で新たに発生した土砂崩れは影響なく調査再開。

*11) 前回以降も降雨等あり、土砂崩れの恐れがあるため、熊岩以降、道道87号線は通行止め。セセキ岩、相泊での観察は実施できず。

<調査結果および考察>

峯浜地区



図-1) 峯浜地区調査地点

表-2) 峯浜地区で観察された海鳥

鳥種	4/27	5/22	5/28	6/24	6/27	7/5	7/14	8/7	8/24	9/4	9/27	10/13	10/23	11/17	11/30	12/19	12/29	1/9	1/26	2/21	2/28	3/9	合計
1 オオハムsp.	1											1		1	1		1						5
2 アビ															2								2
3 アカエリカイツブリ															1								1
4 カイツブリsp.													12										12
5 ミズナギドリsp.							500																500
6 ウミウ		5			4				1		19	2	25										56
7 ヒメウ		3										1			5	4		1		1	10	2	27
8 ホオジロガモ																	1			2	6		9
9 スズガモ																							0
10 クログアモ	6															2	18	29	8	10	20	10	103
11 シノリガモ	4														2	1	10	1	16	26	74	8	142
12 ウミアイサ	1															3		6	4	10	10		34
13 オオセグロカモメ	11	5	11	60		2	6	2	2	28		1		2	2	2	2	1		1	12		150
14 シロカモメ																2							2
15 カモメ															1	1							2
16 ウミネコ	1				5		62	192	154	70	10												494
17 ミツユビカモメ								19	1	4			8										32
18 カモメsp.	130												500	100									730
19 ウミガラス		3																					3
20 ケイマフリ																1							1
21 ウトウ	60	10	8	355	6	5	144				6				1								595
合計	214	26	19	415	15	7	712	213	158	102	35	5	545	103	15	16	32	38	30	54	126	20	
種類数	8	5	2	2	3	2	4	3	4	3	3	4	4	3	8	8	5	5	4	6	5	3	

遠浅の海域で沖合にカモメ類やミズナギドリ類が多く遠方でカウントや識別できない群れもあった。冬期間にはカモ類も多い。駐車帯でもあり観察しやすい地点である。ウトウが4月27日から7月14日まで観察されており、6月24日355羽と7月14日144羽を観察している。この種の繁殖期にあたることから育雛の採餌もしている。知床周辺では繁殖しておらず国後島や根室半島の島嶼部で繁殖しており、そこから飛来している個体群であると考えられる。

春日町地区



図- 2) 春日町地区調査点

表 - 3) 春日町地区で観察された海鳥

	鳥種	4/27	5/22	5/28	6/24	6/27	7/5	7/14	8/7	8/24	9/4	9/27	10/13	10/23	11/17	11/30	12/19	12/29	1/9	1/26	2/21	2/28	3/9	合計
1	オオハムsp.	1													6	2	6	2						17
2	シロエリオオハム															2	10							12
3	ミミカイツブリ												1											1
4	ミズナギドリsp.							1500																1500
5	ウミウ							1	1			4			5									11
6	ヒメウ													32	4	24	20	1	55	4	40	95	24	299
7	ヨシガモ	2																						2
8	ヒドリガモ	17	12																					29
9	クロガモ															5	20							46
10	シノリガモ	4	7										5	6	7	1	9	2		4		36	81	
11	ウミアイサ	8	22																					30
12	ユリカモメ	67	46	18									2	476			4							613
13	セグロカモメ											1	2				2							5
14	オオセグロカモメ	44	154	66	76	50	192	33	92	250	175	173	93	105	54	19	95	4	8	68	11	32	2	1796
15	シロカモメ												7			1	5				4		4	21
16	カモメ												4		7	4	4			2		2		23
17	ウミネコ	60	24	10	1		28	4	192	113	104	32	8	3	11									590
18	ミツユビカモメ						53	63	4		18		4	315		15								472
19	ウミスズメ																1							1
20	ウトウ	120	13	3			32	31										1						199
21	アオサギ								1		2													3
	合計	323	278	97	77	50	305	1632	290	363	299	210	116	947	94	73	176	9	72	82	55	177	26	
	種類数	10	8	4	2	1	4	6	5	2	4	4	6	9	8	9	11	4	3	5	3	6	2	

春苺古丹橋と消火栓春日 2 のある海岸で調査した。春苺古丹川の河口ではカモメ類が水浴や水飲みのために集まっていた。この地点は冬期は除雪しておらず車を駐車できないため調査できなかった。消火栓春日 2 の地点では 7 月 14 日に 1500 羽のミズナギドリ類の大群が見られたが遠方のため識別できなかった。冬期間には、ヒメウが消波ブロックの上で休んでいる様子が観察された。

八木浜地区



図- 3) 八木浜地区調査地点

表 - 4) 八木浜地区で観察された海鳥

鳥種	4/27	5/22	5/28	6/24	6/27	7/5	7/14	8/7	8/24	9/4	9/27	10/13	10/23	11/17	11/30	12/19	12/29	1/9	1/26	2/21	2/28	3/9	合計	
1 オオハムsp.	1															1								2
2 ウミウ							2	3			4													9
3 ヒメウ												2	2	9										13
4 スズガモ												1	9											10
5 シノリガモ	27										2			4	10				4					47
6 ウミアイサ												16	2						4					22
7 ユリカモメ												23	21	3	1									48
8 セグロカモメ												3	1					1						5
9 オオセグロカモメ	56	65	120	69	29	98	49	169	125	110	184	350	52	85	11	43	100	14	8	8	4	8	1757	
10 シロカモメ	1													6	25	4	2							38
11 カモメ												4		9	2									15
12 ウミネコ						3	85	208	102		137	2	66	6										609
13 ワシカモメ																			1					1
14 ミソコビカモメ								4	3		3	36	91											137
15 ハシフトウミガラス																		1						1
16 ウトウ	148		9	2	13	1							12											186
17 アオサギ										2	1													3
合計	233	65	129	71	42	102	136	384	230	112	332	411	268	97	51	81	104	18	17	8	4	8		
種類数	5	1	2	3	2	3	3	4	3	2	7	4	10	5	8	5	3	4	4	1	1	1		

麻布漁港の防波堤の上から観察を行った。砂浜と消波ブロックにオオセグロカモメを中心としたカモメ類が多く集まった。近くに水産加工場もあることから、それも要因となっている。4月27日に沖合にウトウが148羽が見られた。8月7日にウミネコが208羽が見られた。ウミネコは知床半島のウトロ側で少数繁殖しているのみで、どこから飛来している個体であるかは不明である。12月以後は、積雪で防波堤に上ることができず、麻布漁港のみでの調査になった。

松法地区



図-4) 松法地区調査地点

表-5) 松法地区で観察された海鳥

鳥種	4/27	5/22	5/28	6/24	6/27	7/5	7/14	8/7	8/24	9/4	9/27	10/13	10/23	11/17	11/30	12/19	12/29	1/9	1/26	2/21	2/28	3/9	合計	
1 オオハムsp.																		1					1	
2 ヒメウ														200		35	46	33						314
3 ホオジロガモ																		1						1
4 スズガモ													11	87	94	24	42	28	4					290
5 シバリガモ												1			7	8	4	12						32
6 ウミアイサ																1	6	5						12
7 ユリカモメ	8																	2						10
8 セグロカモメ														5				1		1	2			9
9 オオセグロカモメ	75	43	40	69	94	58	120	10	25	50	134	233	57	260	71	143	16	16	26	54	42	69	1705	
10 シロカモメ	1												2	10				1		3				17
11 カモメ																3	2	1						6
12 ウミネコ			2				3		1		4		4		1		2							17
13 ワシカモメ															1						2			3
14 ミツユビカモメ																		1						1
15 ウミスズメ																		1						1
合計	84	43	42	69	94	58	123	10	26	50	138	234	72	554	187	211	118	103	30	58	46	69		
種類数	3	1	2	1	1	1	3	1	2	1	2	2	3	5	7	5	7	13	2	3	3	1		

11月17日に松法漁港の防波堤の外壁の外壁にヒメウ200羽がへばり付くようにとまっていた。12月19日35羽・12月29日46羽・1月9日33羽が同じようにとまっていた。観察する場所がなく港内での観察にとどまった。冬期間にスズガモが見られた。1月9日にウミスズメが港内に入っていた。港に集まるオオセグロカモメ中心の観察となった。

礼文町



図- 5) 礼文地区調査地点

表 - 6) 礼文地区で観察された海鳥

	鳥種	4/27	5/22	5/28	6/24	6/27	7/5	7/14	8/7	8/24	9/4	9/27	10/13	10/23	11/17	11/30	12/19	12/29	1/9	1/26	2/21	2/28	3/9	合計
1	オオハム sp.																12	3	7					22
2	ウミウ	1	1		2	3	3	8	6	8	2	28	4	4	2									72
3	ヒメウ						2					5	14	101	262	82	8		18	1	7	4	4	508
4	オオハクチョウ																9	3						12
5	ホオジロガモ																36	9	10	30	33		4	122
6	スズガモ														33	1	22				1	4	17	78
7	クロガモ																22		2	24	60	216	70	394
8	シノリガモ	20										17	12	4	12	26	8	11	47	30	57		2	246
9	ウミアイサ	21											1			1	45	12	91	102		442	4	719
10	ユリカモメ	6											1	625	3									635
11	セグロカモメ													1	3						2			6
12	オオセグロカモメ	96	171	74	146	335	333	197	237	269	80	635	172	447	279	104	72	2	14	28	72	97	74	3934
13	シロカモメ														3	3		1						7
14	カモメ													2		2	20			2	14	17	44	101
15	ウミネコ	12		6			227	18	141	246	148	579	41	143								2		1563
16	ワシカモメ														1		4			1		4		10
17	ミツユビカモメ						56		6		64		1	582					1					710
18	カモメsp.													2000	200									2200
19	ハシウトウミガラス																1							1
20	ケイマフリ																				1			1
21	ウミスズメ															10	1		2					13
22	コウミスズメ																1							1
23	ウトウ	88	5	32	25	432	174	1	4							1								762
	合計	244	177	112	173	770	795	224	394	523	294	1264	246	3909	798	230	261	41	192	218	247	786	219	
	種類数	9	3	3	3	3	6	4	5	3	4	5	8	9	10	9	14	7	9	8	9	8	8	

観察は羅臼道の駅と礼文町の前浜で行った。道の駅からは、羅臼川河口にオオセグロカモメが中心に集まり、10月23日にはユリカモメが625羽が集まった。渡り途中で立ち寄ったものと思われる。冬期間には道の駅の前浜にホオジロガモ・スズガモ・クロガモ・シノリガモ・ウミアイサなどが見られ海カモ類を観察するには適した場所である

礼文町の前浜からはヒメウが多く観察され11月17日には262羽をカウントした。

羅臼漁港地区



図- 6) 羅臼漁港地区調査地点

表 - 7) 羅臼漁港地区で観察された海鳥

鳥種	4/27	5/22	5/28	6/24	6/27	7/5	7/14	8/7	8/24	9/4	9/27	10/13	10/23	11/17	11/30	12/19	12/29	1/9	1/26	2/21	2/28	3/9	合計	
1 オオハムsp.															1								1	
2 ウミウ	2	4	6	3	2	10	2	5	7	10			1		1								53	
3 ヒメウ										4					1	6			2					13
4 オオハクチョウ													12											12
5 ホオジロガモ																		1						1
6 スズガモ													23		16		41	53	14	12				159
7 シロガモ											5		4	1	2	1	21	7	10	10			4	65
8 ウミアイサ	1																24	8	28	4	12	19	96	
9 アカエリヒレアシギ											102													102
10 ユリカモメ																			2	2				4
11 セグロカモメ											6	1	3							2	2			14
12 オオセグロカモメ	250	380	576	662	903	631	467	284	167	481	313	652	354	97	20	100	41	68	163	10	266	106	6991	
13 シロカモメ															1							7		8
14 カモメ																105	1	6	3	4			4	123
15 ウミネコ				8		24	677	15	50	121	84	13	2	5										999
16 ミツコビカモメ						16	3	6	14			1	19	258	10									327
17 ハシトウミガラス																								1
18 ウミスズメ																11		1						12
19 マダラウミスズメ																1								1
20 ウトウ	12	5	7	56	2	17	1	1				1	44		3									149
合計	265	389	589	729	907	698	1150	311	238	616	511	686	701	115	167	102	134	142	223	38	287	133		
種類数	4	4	3	5	3	5	6	5	4	4	6	5	9	6	11	2	5	7	7	5	4	4		

羅臼漁港の屋上という見通しの良い場所で、沖合の海鳥も良く観察できる場所である。

そのため、防波堤で繁殖するオオセグロカモメが観察できた。207 巣の営巣を確認し 6 月 27 日には 903 羽をカウントした。しかし、繁殖期途中で繁殖を中断したようで成長した雛や巣立ち雛をほとんど見られなかった。その原因としては、オジロワシの捕食圧が考えられるが、現在のところはその証拠はない。7 月 14 日にはウミネコ 677 羽を観察したが、この種にとって繁殖期でありウトロ側で少数繁殖する以外は周辺での繁殖は確認されていない。そのため繁殖に参加しない個体が集まっていたものと考えられる。9 月 27 日には北極

圏の繁殖地から飛来したアカエリヒレアシシギ 102 羽が観察された。10 月 23 日にはミツユビカモメ 258 羽が観察された。千島列島東部以北で繁殖することから繁殖を終えた個体が出現したと考えられる。11 月 30 日には、世界の中で最も希少で生態が解っていないマダラウミスズメが 1 羽観察された。環境省のレッドリストでは情報不足となっているが、近年目撃例も激減しており絶滅に最も近い種であると思われる。

12 月に入り羅臼漁港屋上の除雪がされておらず漁港内のみの観察となった。それでも、シノリガモ・スズガモ・ウミアイサなどの海カモが比較的近距离で観察できた。

ロウソク岩地区



図-7) ロウソク岩地区調査地点

表-8) ロウソク岩地区で観察された海鳥

1	鳥種	4/27	5/22	5/28	6/24	6/27	7/5	7/14	8/7	8/24	9/4	9/27	10/13	10/23	11/17	11/30	12/19	12/29	1/9	1/26	2/21	2/28	3/9	合計	
2	オオハムsp.	4													1	5									10
3	フルマカモメ						11																		11
4	ウミウ			1		4	1	1	6	12	3	2	3	2	3										38
5	ヒメウ			4		1				1						2								7	15
6	ヒドリガモ	33																							33
7	シロガモ	6											4	3	5	15	2	8	4	4			10	61	
8	ウミアイサ																8								12
9	セグロカモメ																		1						1
10	オオセグロカモメ	4	12	6	11		3	31	8		14	16			3	1		1		8		1	31	150	
11	シロカモメ																								0
12	カモメ														372	35	2	2							411
13	ウミネコ	4		1					5	7	14	68	435												534
14	ミツユビカモメ				11				1	14			162	65											253
15	ハシブトウミガラス																		1						1
16	エトロウミスズメ																		96						96
17	ウトウ	82	13	278	32	9	2	4		2			11	91											524
	合計	133	25	290	54	14	17	36	20	36	31	86	615	161	384	58	12	11	106	12	0	1	1	48	
	種類数	6	2	5	3	3	4	3	4	5	3	3	5	4	5	5	3	3	5	2	0	1	3		

羅臼漁港から材木岩トンネルをでた隧道口バス停駐車帯で観察を行った。羅臼灯台の直下の材木岩ではオオセグロカモメ 28 巣とウミウ 12 巣、ロウソク岩周辺ではオオセグロカモメ 22 巣が確認された。しかし、ロウソク岩に近い岩礁で営巣するオオセグロカモメは繁殖途中で放棄したようで成長した雛や巣立ち雛を観察しなかった。5月28日にはウトウ 278羽が観察された。この種は知床半島周辺では繁殖していなく、他の地域で繁殖する個体群が飛来しているものと考えられる。10月13日にはミツユビカモメ 162羽・ウミネコ 435羽、11月17日にはカモメ 372羽を観察しておりカモメ類も多く飛来する場所であるようだ。また、沿岸からでは観察することが難しいエトロフウミスズメも1月9日に96羽を観察している。この地点は冬期も除雪してあり年中調査しやすい場所である。

サシルイ地区



図- 8) サシルイ地区調査地点

表 - 9) サシルイ地区で観察された海鳥

鳥種	4/27	5/22	5/28	6/24	6/27	7/5	7/14	8/7	8/24	9/4	9/27	10/13	10/23	11/17	11/30	12/19	12/29	1/9	1/26	2/21	2/28	3/9	合計	
1 オオハムsp.										2						1								3
2 アカエリカイツブリ												1												1
3 ウミウ					2			1	1														1	4
4 ヒメウ																							1	1
5 シノリガモ	14	1									1	2	11		13	1		10	2	4	150	34		243
6 ウミアイサ		4														6		14						24
7 アカエリヒレアシギ											22													22
8 セグロカモメ																		1						1
9 オオセグロカモメ		52	21	4	8	2		2	7	17				3	4	5	8						1	134
10 カモメ														8	73		2				39			122
11 ウミネコ							1		20	2	27													50
12 ワシカモメ														1									1	2
13 ミツコビカモメ						10	5					5	10											30
14 ウトウ		10	99			41	1	3				20	7											181
合計	14	67	120	4	10	53	7	6	28	21	50	28	28	12	90	13	10	25	2	43	150	37		
種類数	1	4	3	1	2	3	3	3	3	3	3	4	3	3	3	4	2	3	1	2	1	1	4	

サシルイ中央バス停で建築現場事務所周辺で観察した。9月27日にアカエリヒレアシギ22羽が渡り途中に飛来した。11月30日カモメ73羽、2月28日シノリガモ150羽を観察した。観察期間内では4種類以内と海鳥の少ない地点である

天狗岩地区



図- 9) 天狗岩地区調査地点

表 - 10) 天狗岩地区で観察された海鳥

鳥種	4/27	5/22	5/28	6/24	6/27	7/5	7/14	8/7	8/24	9/4	9/27	10/13	10/23	11/17	11/30	12/19	12/29	1/9	1/26	2/21	2/28	3/9	合計	
1 オオハムsp.													2											2
2 ウミウ					3	1		1	6			1											3	12
3 ヒメウ				1									1								27		3	32
4 ホオジロガモ																							8	8
5 スズガモ																						10	2	12
6 シノリガモ	103	6									1				1	4	5	4	4	12		5	17	162
7 ウミアイサ														445										445
8 ユリカモメ	134																							134
9 オオセグロカモメ	88	10	15	4	169	13	5	14	67	26	46	50	6	18	6	14					4	54	39	648
10 シロカモメ																						2		2
11 カモメ														240	1	60		2	85				4	392
12 ウミネコ					32			19	86		194	40												371
13 ミツユビカモメ							25	3			4	61	12	7	1	1								114
14 ウミスズメ																			32					32
15 ウトウ			77	8	3	6	5		2				20											121
合計	325	16	92	13	207	20	35	37	161	26	245	152	41	710	9	79	5	6	121	43	71	73		
種類数	3	2	2	3	4	3	3	4	4	1	4	4	5	4	4	4	1	2	3	3	4	4	6	

天狗岩の駐車帯で観察を行った。オカバケ川河口にオオセグロカモメ中心としたカモメ類が飲水と水浴のために集まっていた。4月27日は北へ向かうユリカモメ134羽、11月17日にカモメ240羽・ウミアイサ445羽、2月21日にはヒメウ27羽を観察した。

知円別地区



図-10) 知円別地区調査地点

表-11) 天狗岩地区で観察された海鳥

鳥種	4/27	5/22	5/28	6/24	6/27	7/5	7/14	8/7	8/24	9/4	9/27	10/13	10/23	11/17	11/30	12/19	12/29	1/9	1/26	2/21	2/28	3/9	合計	
1 オオハムsp.	8																	1					9	
2 シロエリオオハム															1				3	8			12	
3 ミズナギドリsp.							100																100	
4 ウミウ					2				6			1											9	
5 ヒメウ								1									1				28		30	
6 ホオジロガモ																					2		2	
7 スズガモ												5	74	32	5			11	8				135	
8 シノリガモ	16													1	4	4	43	38	20	24		1	151	
9 ウミアイサ														7	19	8	6	7	8	10		4	69	
10 ユリカモメ	3																						3	
11 セグロカモメ												3	18		3		1				1	1	27	
12 オオセグロカモメ	296	264	463	382	396	403	443	384	331	296	248	69	383	71	67	31	34	81	100	107	142	238	5229	
13 シロカモメ															1	7	1	1	3				2	15
14 カモメ														29	6	130	1				2		30	198
15 ウミネコ	2	2		6	8	13	12	11	34	77	63	7	1200	3									1438	
16 ワシカモメ															1					1			1	3
17 ミツユビカモメ						8	22		4	1		2	680	21									738	
18 カモメsp.														100			100						200	
19 ハシブトウミガラス																1		1					2	
20 ケイマフリ																					1		1	
21 ウミスズメ																				4			4	
22 エトロウミスズメ																		7					7	
23 ウトウ	8	4	121		5	30	43					2											213	
合計	333	270	584	388	411	454	620	395	376	374	311	89	2355	265	106	181	187	150	152	175	143	276		
種類数	6	3	2	2	4	5	5	2	5	3	2	7	5	9	8	6	8	9	8	8	2	6		

知円別北出口と知円別漁港で観察した。10月23日にはミツユビカモメ680羽・ウミネコ1200羽、12月19日カモメ130羽とカモメ類を観察した。1月26日シロエリオオハム8羽、1月9日エトロフウミスズメ7羽、1月26日ウミスズメ4羽を観察するなど調査期間中に

海鳥 23 種類を確認するなど種類数ともに多い地点である。また 6 月 27 日にはシャチも観察された。知円別漁港ではオオセグロカモメの巣を離岸堤で 48 巣、水産施設の屋根で 20 巣確認した。他のオオセグロカモメの営巣地では巣立ち近い成長した雛を観察する例は少なかったが、この地点ではそれらを多く観察することができ繁殖が成功しているものと思われる。漁港内では冬期間にシノリガモ・ウミアイサなどが近い距離で観察できた。防波堤には多くのカモメ類が休んでいた。年中利用することが出来て観察地点としては適している。

石見橋地区



図-11) 石見橋地区調査地点

表-12) 石見橋地区で観察された海鳥

	鳥種	4/27	5/22	5/28	6/24	6/27	7/5	7/14	8/7	8/24	9/4	9/27	10/13	10/23	11/17	11/30	12/19	12/29	1/9	1/26	2/21	2/28	3/9	合計
1	オオハムsp.	2														8								10
2	シロエリオオハム															1	26							27
3	フルマカモメ							1																1
4	ウミウ			1				1	1	6			3											12
5	シブリガモ									1			12	3			6							22
6	ウミアイサ														1		6							7
7	ユリカモメ	20																						20
8	オオセグロカモメ		2	2		16	28	6			31	6	10	2	2									105
9	シロカモメ													1										1
10	カモメ															159	13							172
11	ウミネコ					6	13	1	10	98	15		27	15										185
12	ミツユビカモメ					8		3	62					26	184	3								286
13	カモメsp.															200								200
14	ウミガラス																4							4
15	ウミスズメ															3	1							4
16	ウトウ	10		17	24	2	64	7																124
	合計	32	2	20	24	32	105	19	73	105	46	6	52	47	346	228	43							
	種類数	3	1	3	1	4	3	6	3	3	2	1	4	5	4	6	5							

北浜隧道の途中の空間から観察した。11月17日カモメ159羽・ミツユビカモメ184羽、11月30日ウミスズメ3羽、12月19日ウミガラス4羽・シロエリオオハム26羽と他の地域では比較的にくい海鳥を観察した。12月29日以降は積雪のため観察できなかった。

ルサ地区



図-12) ルサ地区調査地点

表-13) ルサ地区で観察された海鳥

鳥種	4/27	5/22	5/28	6/24	6/27	7/5	7/14	8/7	8/24	9/4	9/27	10/13	10/23	11/17	11/30	12/19	12/29	1/9	1/26	2/21	2/28	3/9	合計	
1 オオハムsp.												1					1						2	
2 ハジロカイツブリ													2										2	
3 ウミウ		2				1		1	13	1	5	2											25	
4 ヒメウ															15				5	1			6	27
5 ヒドリガモ	7																						7	
6 ホオジロガモ																					8		8	
7 スズガモ																						2	2	
8 シノリガモ	4	3							1	1	2		5	9	4		1	8	10	31		16	95	
9 ウミアイサ	3													4	9		1		10			5	32	
10 ユリカモメ															3								3	
11 オオセグロカモメ	5	8	2	4	41	76		1	96	13	24	29	2	55	7		10			320	2		695	
12 シロカモメ																4					4		8	
13 カモメ	1														1								2	
14 ウミネコ			2					13	175		326	1											517	
15 ワシカモメ																					1		1	
16 ミツユビカモメ							10	48	10	1			5	4									78	
17 カモメsp.															200								200	
18 コウミスズメ																4							4	
19 エトロウミスズメ																		2					2	
20 ウトウ			36	17	59	34	40								1								187	
21 アオサギ								1															1	
合計	20	15	38	21	100	111	50	64	295	16	357	33	14	74	238	8	13	10	25	365	9	22		
種類数	5	4	2	2	2	3	2	5	5	4	4	4	4	6	6	2	4	2	3	6	3	2		

ルサフィールドハウスから観察していたが冬期間は閉館となるため知床川にかかる知床橋で観察した。12月19日コウミスズメ4羽を観察された。11月17日知床川で観察されたシノリガモに漁網のような透明の糸のようなものが首に絡んでいた。特に、苦しんでいる様子や、気にしている様子はなかった。

昆布浜地区



図-13) 昆布浜地区調査地点

表-14) 昆布浜地区で観察された海鳥

鳥種	4/27	5/22	5/28	6/24	6/27	7/5	7/14	8/7	8/24	9/4	9/27	10/13	10/23	11/17	11/30	12/19	12/29	1/9	1/26	2/21	2/28	3/9	合計	
1 オオハムsp.	6														2		1		1					10
2 シロエリオオハム																21								21
3 ミミカイツブリ																1								1
4 アカエリカイツブリ																1								1
5 フルマカモメ						7	5																	12
6 ウミウ		6						1	1															8
7 ヒメウ															17	6	8			6			6	43
8 シノリガモ		3													1		2		6			2	14	
9 ウミアイサ															1	12								13
10 オオセグロカモメ		10	9	18	5	2	1			6			4	5	2	4	9							75
11 カモメ															4									4
12 ウミネコ							1	4	4		210													219
13 ミツコビカモメ						3		18	2															26
14 カモメsp.													100	10										110
15 ウミガラス																2			1					3
16 ハシブトウミガラス																2			1					3
17 ウミスズメ																2								2
18 コウミスズメ																			17					17
19 エトロウミスズメ																		11	1					12
20 ウトウ	15		141	20	45	67	11						1											300
21 アオサギ							1																	1
合計	21	19	150	38	50	79	19	23	7	6	210	0	105	15	30	51	20	11	33	0	0	0	8	
種類数	2	3	2	2	2	4	5	3	3	1	1	0	3	2	7	9	4	1	7	0	0	0	2	

熊岩バス停で観察を行った。12月19日には、シロエリオオハム21羽・ミミカイツブリ1羽・ウミガラス2羽・ハシブトウミガラス2羽・ウミスズメ2羽が観察された。この地点より先の知床岬側は9月27日以降土砂崩れのため通行止めになり観察できなかった。

セセキ地区



図-14) セセキ岩調査地点

表-15) セセキ地区で観察された海鳥

鳥種	4/27	5/22	5/28	6/24	6/27	7/5	7/14	8/7	8/24	9/4	合計
1 フルマカモメ						13	11				24
2 ウミウ		2	1	1		1	1	3	2	4	15
3 オナガガモ	2										2
4 シノリガモ	10										10
5 オオセグロカモメ		2		1	8	6	2	30	173	102	324
6 ウミネコ						1	11	29	381	58	480
7 ミツユビカモメ								252	23	4	279
8 ウトウ			67	4	52	65	56				244
合計	12	4	68	6	60	86	81	314	579	168	
種類数	2	2	2	3	2	5	5	4	4	4	

セセキ温泉の駐車場から観察した。フルマカモメを7月5日に13羽・7月14日に11羽観察した。ミツユビカモメを8月7日に252羽観察した。熊岩から先が通行止めになり9月27日以降の観察ができなくなった。

相泊地区



図-15) 相泊地区調査地点

表-16) 相泊地区で観察された海鳥

	鳥種	4/27	5/22	5/28	6/24	6/27	7/5	7/14	8/7	8/24	9/4	合計
1	フルマカモメ						1	59				60
2	ハシボソミズナギドリ						300					300
3	ミズナギドリsp.						10					10
4	ウミウ		5					4	3	8		20
5	ヒメウ					1						1
6	シノリガモ	10										10
7	ビロードキンクロ	2										2
8	セグロカモメ							1				1
9	オオセグロカモメ	62	39	1	29	59	87	277	8	5	74	641
10	ウミネコ						71	51	139	799	246	1306
11	ミツユビカモメ							14	258	51		323
12	ウトウ	32	3	111	39	49	115	75	2			426
	合計	106	47	112	68	109	584	481	410	863	320	
	種類数	4	3	2	2	3	5	7	5	4	2	

相泊温泉駐車場と相泊港で観察した。ビロードキンクロを4月27日に2羽、フルマカモメを7月14日に59羽、ハシボソミズナギドリを7月5日に300羽を観察した。他の地点と異なり沖合の海鳥を観察できる地点である。しかし9月27日以降は崖崩れのための通行止めで観察できなくなった。

1) 各鳥種についての各論

今回は、希少鳥類を中心に注目鳥を選んで各論を述べる

・オオハム類

オオハムとシロエリオオハムは条件が良くないと識別が難しいため両種一緒に述べる。

シロエリオオハムは北極圏に近い場所で繁殖し、オオハムはサハリン北部からカムチャツカ以北で繁殖する。4月27日、11月30日、12月19日にそれぞれ22羽、23羽、77羽と多数出現した。4月27日春に繁殖地に向かう途中で出現し11月から1月に出現したものは南に向かう途中の個体と越冬する個体であったと考えられる。

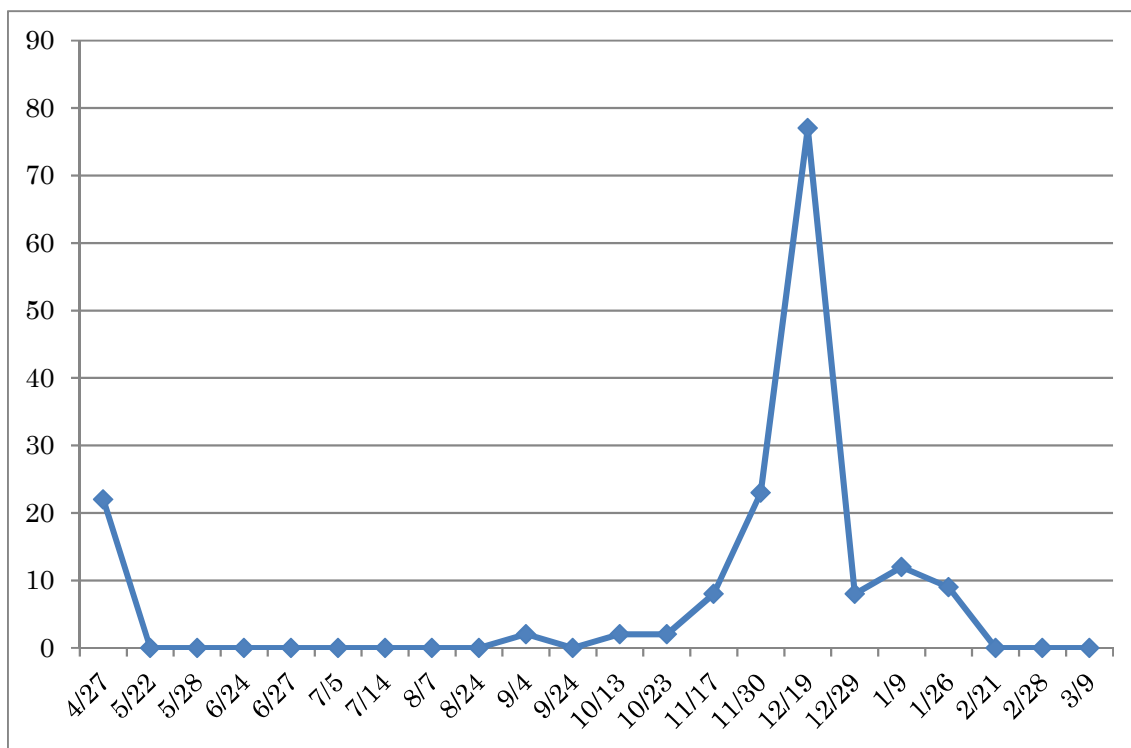


図 - 16) オオハム類の日別個体数の推移

・フルマカモメ

7月5日に32羽、7月14日に76羽が観察された。国内では繁殖せず、千島列島のウルップ島以北で繁殖する。羅臼海域には繁殖に参加しない個体が飛来していたものと考えられる。

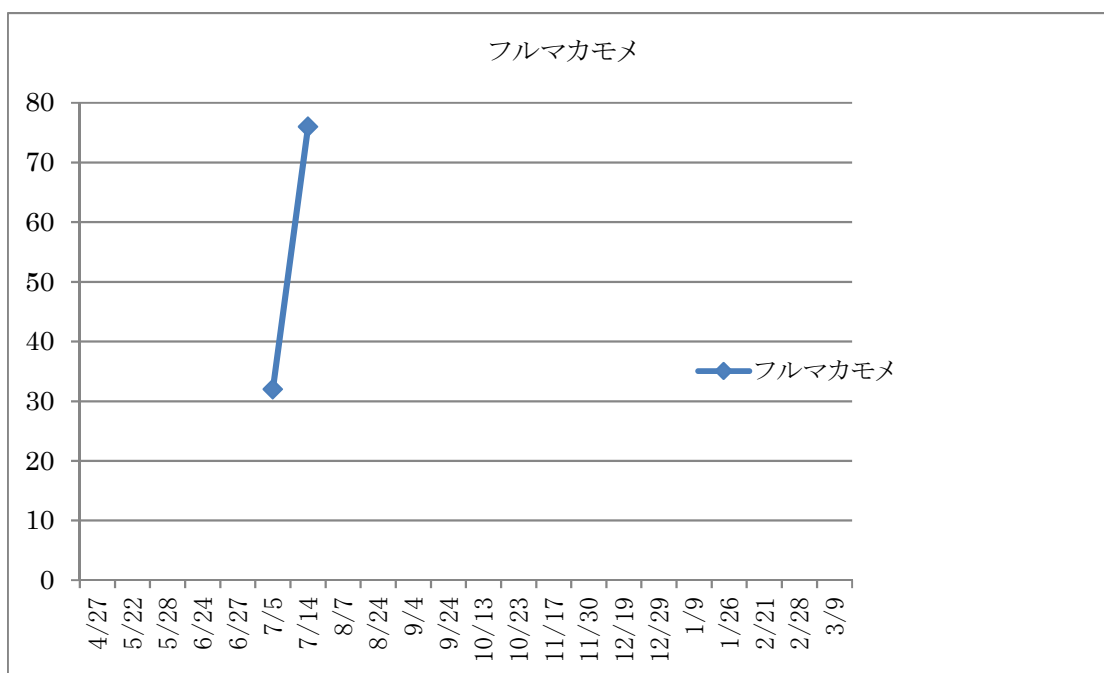


図 - 17) フルマカモメの日別個体数の推移

・ハシボソミズナギドリ

7月5日に相泊から300羽が観察されただけであったが、7月14日に2100羽のミズナギドリ sp が観察された。遠方のため識別が難しかったが、ハシボソミズナギドリの可能性が高い。

繁殖地は、オーストラリアのタスマニア島やニュージーランド南部の南極海に面する島嶼部である。繁殖終了後、北に向かい羅臼沖では4月中旬頃から見られる。この種は羅臼沖から千島周辺で換羽を行うことから、羅臼周辺の海域は渡りの中継地点として重要な海域であると考えられる。

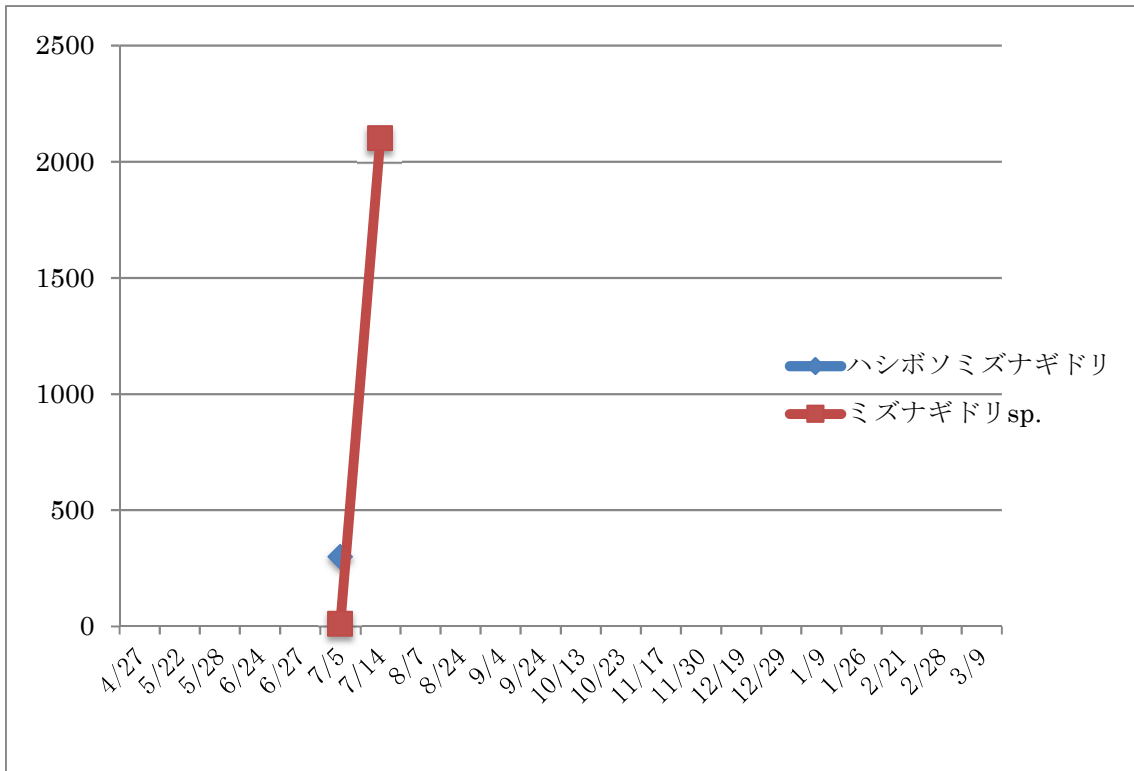


図-18) ハシボソミズナギドリの日別個体数の推移

・ヒメウ

11月17日の469羽をピークに、ほぼ年間を通して観察された。

知床半島では繁殖しておらず、近隣では千島列島で繁殖している。繁殖期にも少数が観察されるが繁殖に参加しない個体が飛来しているものと考えられる。

環境省の絶滅危惧種Ⅱ類に指定されているが、羅臼海域では比較的多くの個体が観察され、この海域はヒメウにとって重要な生息地であると考えられる。

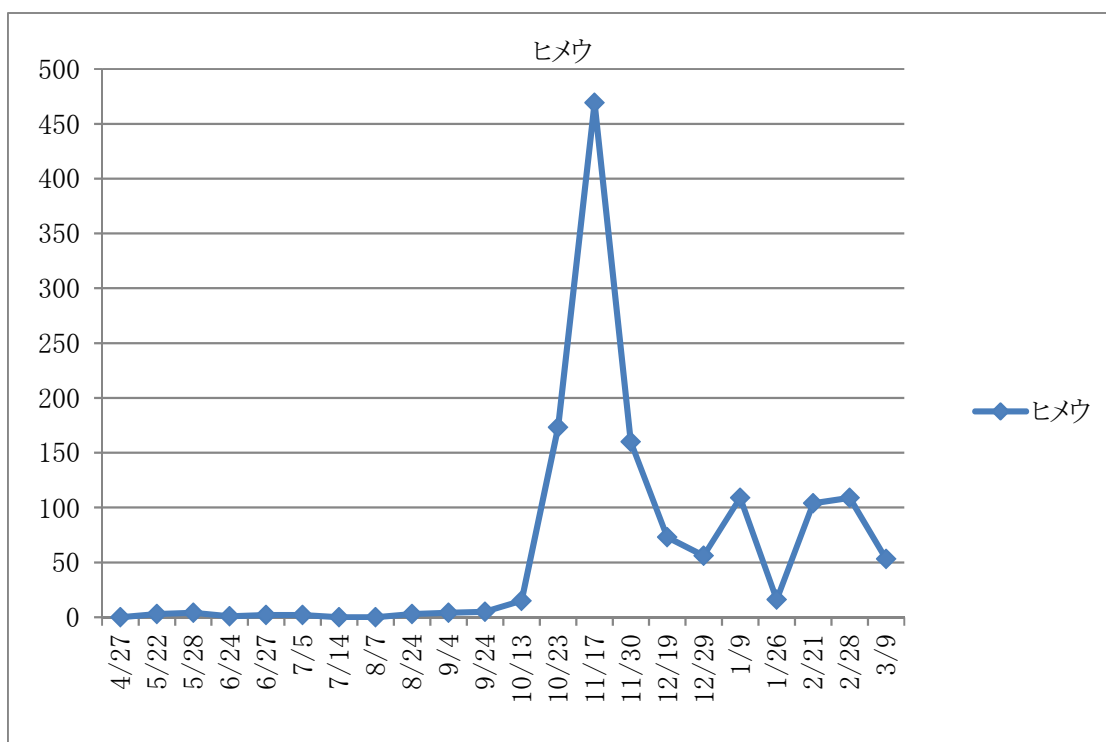
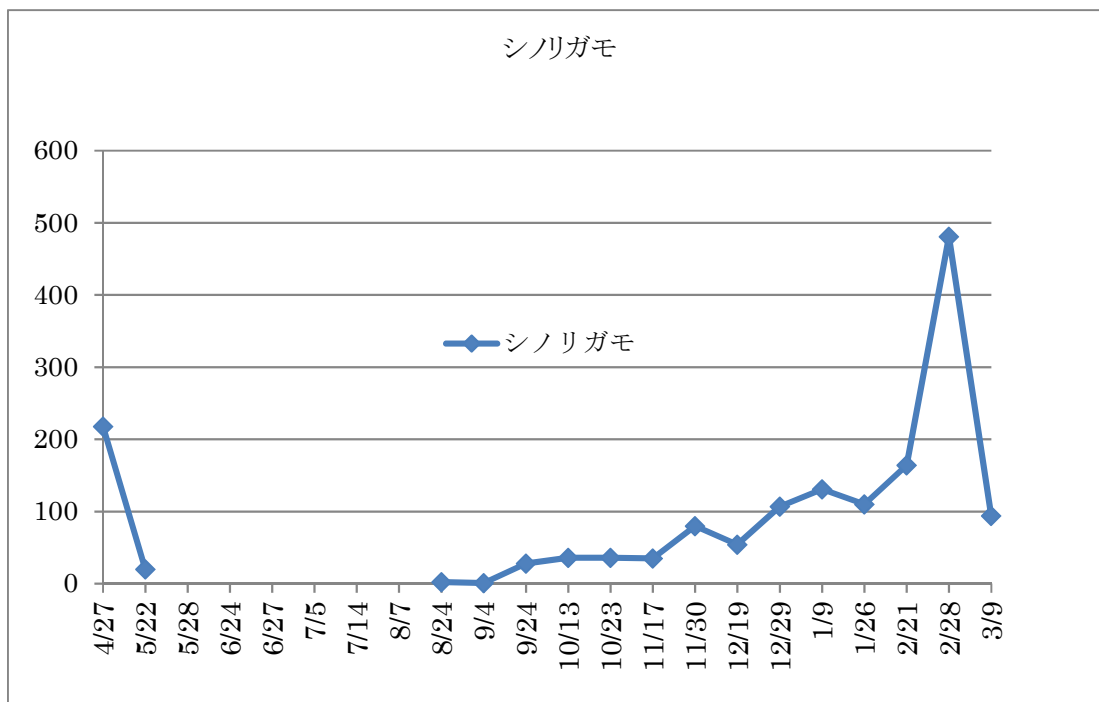


図-19) ヒメウの日別個体数の推移

・シノリガモ

繁殖は森林の溪谷で行い、繁殖期以外は海域で生息するという特異な生態を持っている。知床半島においても繁殖が確認されている。繁殖期にあたる5月28日から8月7日の期間は観察されなかった。比較的どの地点でも観察されており繁殖期以外は優占種であった。特に川の河口付近で観察されていた。



図ー20) シノリガモの日別個体数の推移

表-17) シノリガモが観察された状況と詳細情報

日時	場所	個体数	日毎合計	雌雄の判別				備考
				♂	♀	エクリプス	不明	
4月27日	峯浜	4	218	1	1			2 沖をS
	春日町	4		2	2			S
	八木浜	27						27 S
	札文	20		10	10			
	ローソク岩	6						6 S
	サシレイ	14		7	7			S
	天狗岩	103						103 S
	知円別	16		4	4			8 S
	ルサ	4						4 S
	セセキ岩	10		5	5			S
相泊	10	1	1			8 S		
5月22日	春日町	7	20					7 2F 5S
	サシレイ	1			1			S
	天狗岩	6				6		S
	ルサ	3					3	S
	昆布浜	3				3		F
5月28日	なし	0						
6月24日	なし	0						
6月29日	観音岩	2	5				2 岩にP	
6月29日	カブト岩	3					3 岩にP	
7月5日	なし	0						
7月9日	なし	0						
7月14日	なし	0						
7月15日	なし	0						
8月6日	なし	0						
8月7日	なし	0						
8月24日	岩見橋	1	2				1 沖をS	
8月24日	ルサ	1					1 沖をS	
9月4日	ルサ	1	1				1 沖をS	
9月27日	八木浜	2	28					2 沖ボテン上P
	札文	14						14 沖をS
	羅臼港	3						3 沖ボテン上P
	サシレイ	1						1 沖をS
	天狗岩	1						1 沖をS
	ルサ	2						2 沖をS
10月13日	春日町	5	36	3	2			河口をS
	松法	1						1 漁港内P
	札文	7						7 札文町沖P
	ローソク岩	4						5 河口をS
	サシレイ	2			1	1		4 沖をS
10月23日	岩見橋	12	36					12 沖を6S, 6P
	春日町	6		4	2			沖をS
	札文	4		3	1			札文町沖S
	羅臼港	4		2	2			羅臼港内S
	ローソク岩	3						3 沖をS
11月17日	サシレイ	11	30					11 峠沖をS
	岩見橋	3						3 1S, 2P
	ルサ	5		1	1			3 沖をS
	春日町	7				7		沖をS
	札文	5		2	3			札文町沖S
11月30日	羅臼港	1	72	1	1			1 沖をF
	ローソク岩	5						5 沖をS
	知円別	1						1 沖をS
	ルサ	8		3	5			河口をS
	峯浜	2		1	1			沖をS
	春日町	1					1	沖をS
	八木浜	4				4		麻布漁港内S
	札文	14		2	2			7 札文町沖S
	羅臼港	2		1	1			14 道の駅河口P
	ローソク岩	15						羅臼港内S
11月30日	サシレイ	13	72					13 S
	天狗岩	1						1 S
	知円別	4		3	1			トンネル沖S
	ルサ	4						4 沖をS
	昆布浜	1			1			熊岩沖S

S=泳ぎ P=とまり F=飛行

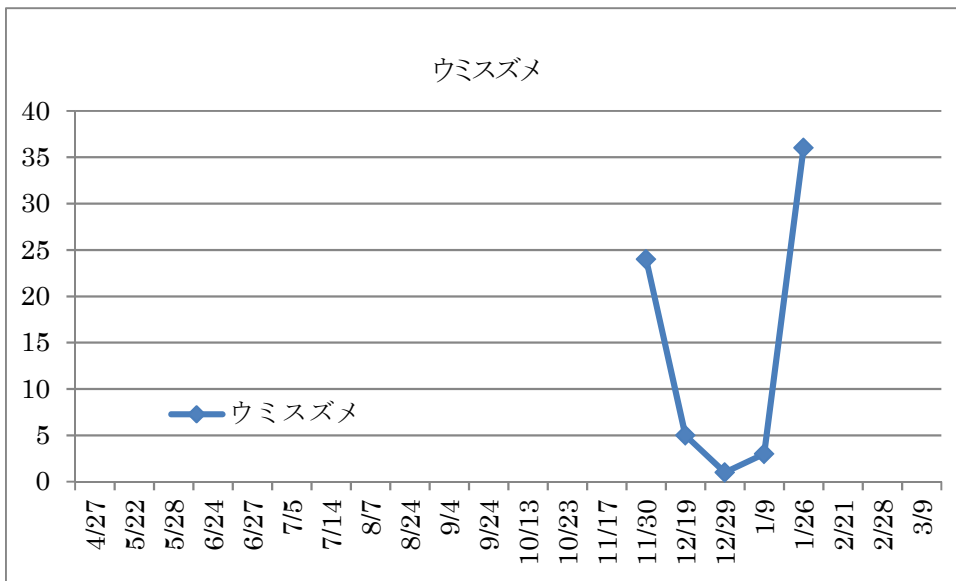
・ウミガラス

5月22日に3羽が観察されたのみであった。この種は、かつては根室のモユルリ島で繁殖していたが現在は繁殖しておらず、国内では天売島のみで繁殖している。天売島では1960年代に約8000羽が生息していたが、1990年代には20羽以下に減少した。環境省の絶滅危惧種Ⅰ類に指定されており、国内からの絶滅が危惧されている。

・ウミスズメ

11月30日に24羽、12月19日に5羽、12月25日に1羽、1月9日に3羽、1月26日に36羽が観察され、1月26日の36羽が最も多い観察個体数となった。今期は冬期のみ出現であった。

知床半島での繁殖の記録はない。近隣の国後島や択捉島での繁殖の可能性はある。国内では、現在、天売島で繁殖しているが根室半島の島嶼部でも繁殖の可能性はある。抱卵から育雛期間が短く、さらに夜間帰巢するため繁殖確認の調査は困難である。環境省絶滅危惧種Ⅰ類に指定されている。



図ー21) ウミスズメの日別個体数の推移

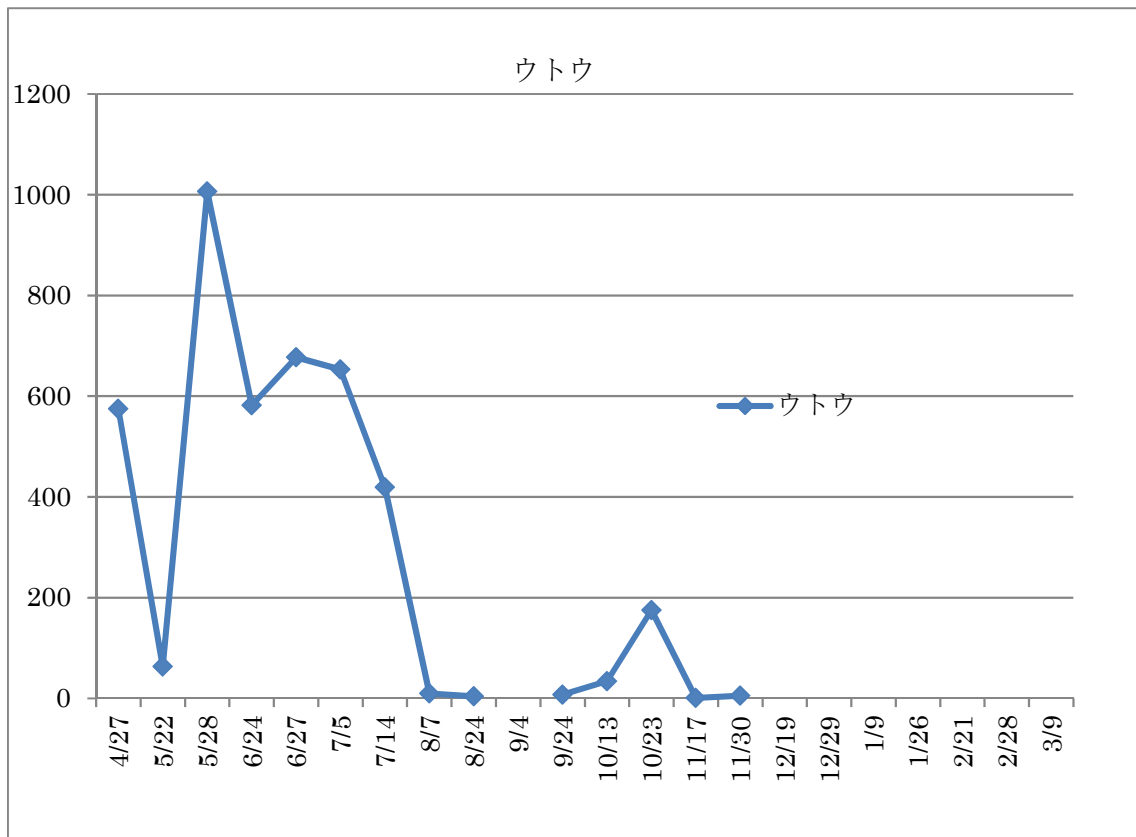
・マダラウミスズメ

11月30日に羅臼漁港屋上から飛行する1羽を観察した。この種は海鳥でありながら森林で繁殖するという特異な生態を持っている。日本では、過去に支笏湖に近い森林と小清水町の藻琴山で繁殖を示唆するような記録がある以外の情報はない。最も絶滅に近い種であると考えられる。

・ウトウ

繁殖期にあたる4月から8月までの期間で数多く観察された。最大羽数は5月28日の1006羽であった。知床半島では繁殖しておらず、国後島や択捉島で繁殖する個体が採餌していたものと考えられる。そのことから、今期の羅臼海域の餌資源が非常に豊富であったことが示唆された。

図-22) ムトウの日別個体数の推移



2) 調査期間における海鳥の全体的な動向

陸上調査の各調査日ごとの観察された海鳥の総個体数について、2015年と2016年の調査結果をグラフに示した。

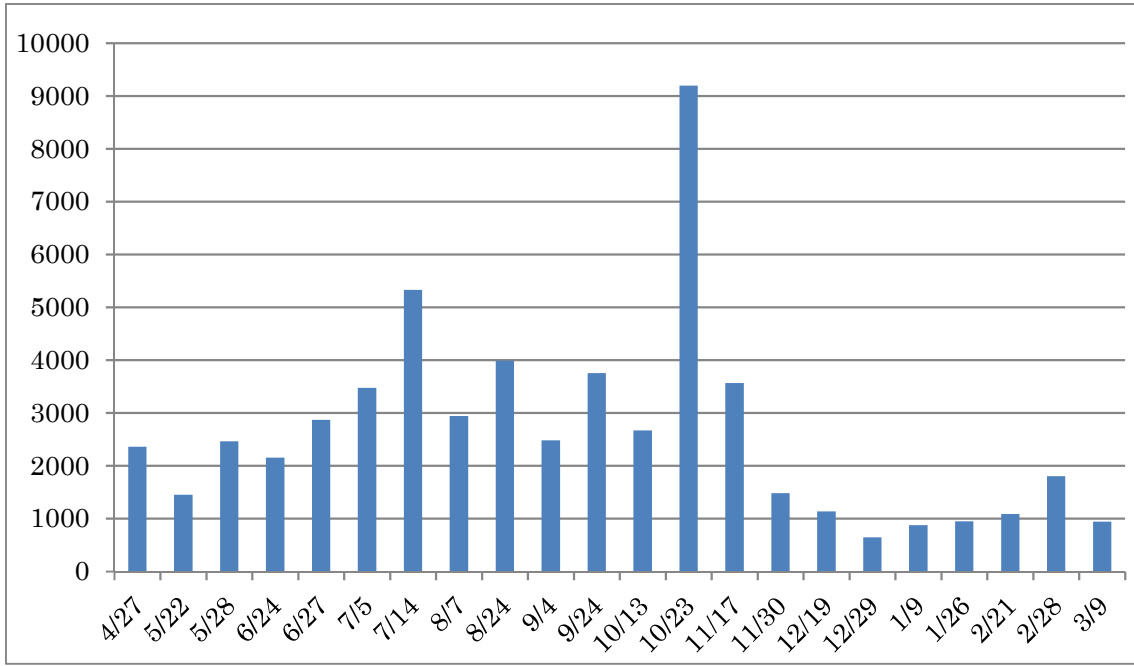


図-2 3) 2016年度陸上総個体数グラフ

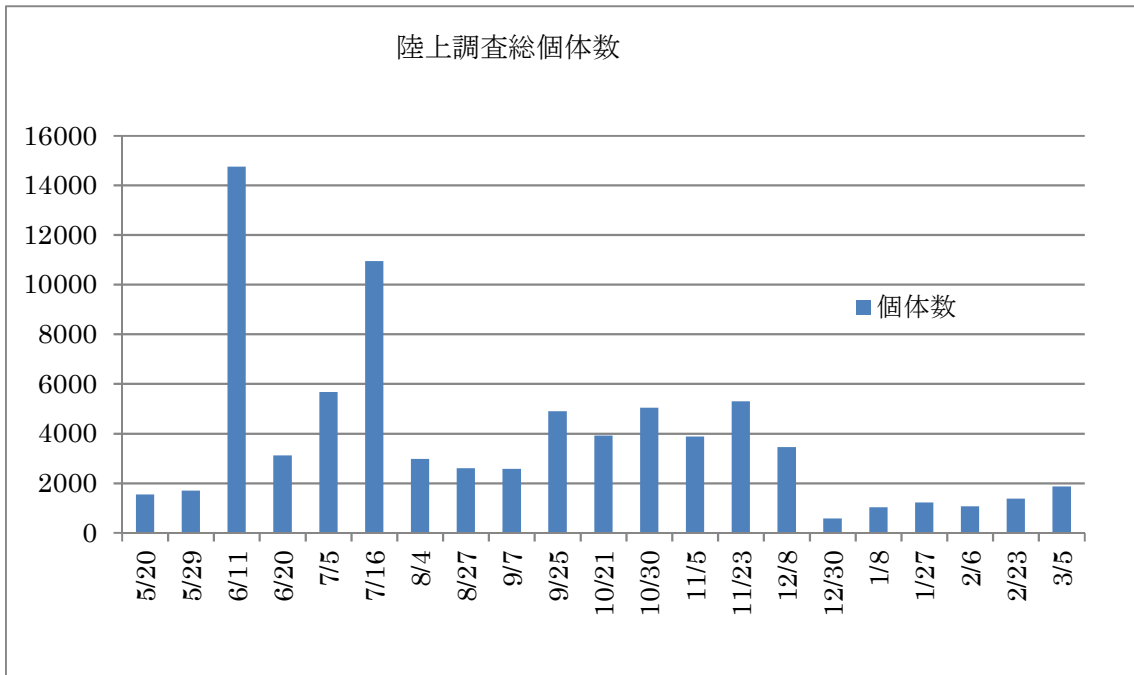


図-2 4) 2015年度陸上総個体数グラフ

2015年はハシボソミズナギドリの1万5千羽近い個体数に起因して個体数の多い日があったが、2016年の調査ではハシボソミズナギドリの1万羽を超える個体数を観察する日なかった。最も個体数が多かったのが10月のオオセグロカモメとミツユビカモメであった。また沖合で遠方のため識別できないカモメ類も多く見られた。ハシボソミズナギドリの数が少なかった事に関しては不明である。

2-1-2. 海上からの海鳥調査

<調査範囲>

相泊～知床岬の沿岸およびその海域における、船舶を用いた海上調査。

相泊～知床岬の沿岸およびその海域については、K～Iの3区間に分け、さらに岸側と沖側に分けて調査用紙を作成し、海上調査時に用いた。

・K岸側 ・J岸側 ・I岸側 ・K沖側 ・J沖側 ・I沖側



図-25) 海上調査位置図と区域割図

上記の陸上からの調査と同様、調査実施日ごとに特記事項を日報（別途添付）に記入した。

各調査を行った日時と調査時の条件について、表にまとめた（表-18）。

表-18) 海上からの調査時の気象条件

	日付	天候	波高	海水温	気温	風向	風速	種類数
1	6月29日	晴	1m	11℃	14.7℃	南東	1.6m/s	13
2	7月9日	晴	1m	12℃	17.7℃	南南東	2.8m/s	7
3	7月15日	晴	1m	14℃	15.0℃	南南東	1.9m/s	8
4	8月6日	晴	1m	19℃	25.9℃	北西	2.1m/s	9

* 6月は2回の調査を予定していたが高波のため中止となり各1回にとなった。

8月2回目の調査と9月以降の調査は北浜より先が土砂崩れのため相泊漁港まで行くことができなく中止となった。

<調査方法>

相泊～知床岬の沿岸およびその海域については、作成した調査用紙をもとに調査を行った。できるだけ波の状態の良い日を選んで小型漁船にて相泊港から出港し、基本的にK岸側、J岸側、I岸側を往路とし、知床岬にて海上約3km～4kmほど沖に出し、I沖側、J沖側、K沖側を復路として相泊港に帰港した。

海鳥がいる場合は徐行し海鳥の行動を妨害しないよう注意を払って航行した。各調査日および調査時の条件については、海上からの調査時の気象条件（表-18）に示した。

調査は、船上から10倍の双眼鏡を用いて海上を観察し、観察できる範囲に出現したすべての海鳥の個体数を記録した。

<調査結果および考察>

1) 各区域と調査日の結果考察

各観察日における鳥種と個体数を、観察区域ごとに表としてまとめた。(表-19~24)

このデータをもとに、季節ごと、区域ごとに表・グラフを作成し考察を加えた。

表-19) K区域岸側で観察された鳥種とその個体数

	鳥種	6月29日	7月9日	7月15日	8月6日
1	オオハム sp.	1			
2	ウミウ	5	16	6	6
3	ヒメウ		3	3	2
4	シノリガモ	2			
5	オオセグロカモメ	599	250	577	274
6	ウミネコ	49	207	459	509
7	ミツユビカモメ	13		1	
8	ウトウ	59	58	28	
	合計	728	534	1074	791
	種類数	8	5	6	4

表-20) K区域沖側で観察された鳥種とその個体数

	鳥種	6月29日	7月9日	7月15日	8月6日
1	フルマカモメ	1	1		
2	ハシボソミズナギドリ	1			1
3	ウミウ		1		
4	オオセグロカモメ	156	25	257	2
5	ウミネコ	4	26	56	39
6	ミツユビカモメ	28		66	345
7	ウトウ	1911	148	1236	6
	合計	2101	201	1615	393
	種類数	6	5	4	5

表－２１）Ｊ区域岸側で観察された鳥種とその個体数

	鳥種	6月29日	7月9日	7月15日	8月6日
1	ウミウ	22	24	37	29
2	ヒメウ	2	7	24	
3	オオセグロカモメ	605	225	175	108
4	ウミネコ	96	37	132	121
5	ウトウ		1	1	
6	アオサギ			5	2
7	合計	725	294	374	260
	種類数	4	5	6	4

表－２２）Ｊ区域沖側で観察された鳥種とその個体数

	鳥種	6月29日	7月9日	7月15日	8月6日
1	フルマカモメ		3		
2	ハシボソミズナギドリ				29
3	ウミウ	1			
4	ヒメウ	1			
5	オオセグロカモメ	8	12	4	1
6	ウミネコ	6	8	5	20
7	ミツユビカモメ				304
8	ウトウ	792	45	149	3
	合計	808	68	158	357
	種類数	5	4	3	5

表－２３）Ⅰ区域岸側で観察された鳥種とその個体数

	鳥種	6月29日	7月9日	7月15日	8月6日
1	オオハム sp.	2			
2	フルマカモメ		1200	300	
3	ウミウ	77	88	107	87
4	ヒメウ	97	50	141	
5	シノリガモ	3			
6	オオセグロカモメ	241	53	328	93
7	ウミネコ	15	72	40	12
8	ミツユビカモメ	1			
9	ケイマフリ	1			
10	ウミスズメ	1			
11	ウトウ	20	2	20	
12	アオサギ				1
	合計	458	1465	936	193
	種類数	11	6	6	4

表－２４）Ⅰ区域沖側で観察された鳥種とその個体数

	鳥種	6月29日	7月9日	7月15日	8月6日
1	フルマカモメ	2	24	23	1
2	ハシボソミズナギドリ				5
3	ミズナギドリ sp.				1
4	ウミウ				1
5	ヒメウ	50			
6	オオセグロカモメ	45		111	59
7	ウミネコ	21	5	1	3
8	ミツユビカモメ	80		17	144
9	ケイマフリ	2			
10	エトピリカ		1		
11	ウトウ	1108	55	169	5
	合計	1308	85	321	219
	種類数	7	4	5	8

2) 各鳥種についての各論

・オオハム sp

この仲間は警戒心が強く、オオハムとシロエリオオハムを識別する距離まで船舶で近寄ることは容易ではないため、オオハム sp とした。6月29日に3羽観察した。この両種の繁殖期であり繁殖に参加しないものが観察されたと考えられる。

・フルマカモメ

7月9日に知床岬に近いI区域の岸側の航路で1200羽を観察した。この日は全体で1288羽を観察した。この種はミズナギドリの1種であるが潜水することができず、海面で魚や動物プランクトンを捕食するが魚や鳥そして動物などの死体を主に食べる。2015年の調査では最高羽数が6月14日の339羽であった。昨年よりも800羽ほど多く観察された。

・ハシボソミズナギドリ

8月6日35羽とこの種にしては極端に少ない数であった。4月下旬から大群で出現し7月上旬まで観察されることが多い。2015年は6月14日に3万羽を超える個体数を観察している。

・ウミウ

知床半島で繁殖しているが今年度の羅臼側では材木岩で12巣を確認しただけであった。以前はメガネ岩周辺に大きなコロニーが存在していたがヒグマの侵入によって消滅してしまった。今回の調査では毎回100羽以上が観察されているがウトロ側や他の地域で繁殖する個体や繁殖に参加しない個体が観察されていたと考えられる。

・ヒメウ

知床岬に近いI区域の岩礁で休む個体を多く観察した。6月から7月はヒメウの繁殖期であり、繁殖に参加しない個体が多く集まっていた。ヒメウは、生殖羽は非常に派手な色彩になるが、そのような個体を観察することがなく、ほとんどは繁殖に参加しない未成熟の個体であったと考える。

・シノリガモ

6月29日K区域の岸側で2羽・I区域の岸側で3羽を観察しただけであった。知床半島のウトロ側では繁殖の記録がある。この種は溪谷で繁殖する。この周辺には、そのような環境があり繁殖している個体が観察されていた可能性がある。

- ・オオセグロカモメ

6月29日に1654羽と最も多く観察された。知床半島で繁殖し知床岬周辺から羅臼市街地まで繁殖地がある。

- ・ウミネコ

知床半島ウトロ側で少数繁殖するのみである。6月から7月に出現した個体は繁殖に参加しないものが多いと思われる。

- ・ミツユビカモメ

知床半島周辺では繁殖しなく千島列島中部以北で繁殖する。魚食性の強いカモメで小魚の群れを追って飛来することが多い。8月6日の793羽はそれに由来するものと考えられる。

- ・ケイマフリ

6月29日知床岬に近いI区域3羽を観察した。羅臼側には繁殖地はなく、ウトロ側のプユニ岬と知床五湖の断崖までの地域で繁殖する。

- ・エトピリカ

6月29日知床岬に近いI区域の沖側で1羽を観察した。知床半島では繁殖していません。根室半島のモユルリ島で少数繁殖するのみである。羅臼沖には希に出現する。最も近く営巣数の多い繁殖地は択捉島南部の萌消島である。

- ・ウトウ

6月29日3890羽を観察した。知床岬付近の岸側以外の海域で、大群で出現した。また、調査時間外の午後には魚をくわえている個体も多く見られた。そのことから、雛を育てるための餌を確保するために飛来している個体が多かったと推察される。知床半島で繁殖しない種であるが、周辺地域から多く集まってきたと考えられる。

3) 調査期間全体における海鳥の全体的な動向

海上調査の各調査日および場所ごとの、観察された海鳥の総個体数および種類数について表に示した（表-25）。

表-25) 各調査日に観察された鳥種とその個体数

	鳥種	6月29日	7月9日	7月15日	8月6日
1	オオハム sp.	3	0	0	0
2	フルマカモメ	3	1228	323	1
3	ハシボソミズナギドリ	1	0	0	35
4	ミズナギドリ sp.	0	0	0	1
5	ウミウ	105	129	150	123
6	ヒメウ	150	60	168	2
7	シノリガモ	5	0	0	0
8	オオセグロカモメ	1654	555	1452	537
9	ウミネコ	191	355	693	704
10	ミツユビカモメ	122	0	84	793
11	ケイマフリ	3	0	0	0
12	エトピリカ	0	1	0	0
13	ウトウ	3890	319	1603	14
14	アオサギ	2	0	5	3
15	オジロワシ	1	0	0	0
	合計	6131	2647	4478	2213
	種類数	13	7	8	9

2016年の海上からの海鳥調査で特筆すべきことは、ハシボソミズナギドリの飛来が極端に少なかったことである。観光船業者からも「今年はハシボソミズナギドリが少ない」という話が聞かれた。オーストラリア南部・ニュージーランド南部などの南極海に面した島嶼部で繁殖し、北はベーリング海まで地球規模で渡る。その途中で羅臼沖に大群で出現することが多い。しかし、2016年は少なく繁殖地または羅臼周辺海域での環境の変化が影響している可能性もあり、今後も注意深く観察する必要がある。ウトウは2015年とほぼ同じ数が飛来した。2016年はトウゾクカモメの出現はなかった。

また、2016年は崖崩れのため8月中旬以降に相泊漁港まで行けず、調査をする事が出来なかった。

2-1-3. まとめ

羅臼沖の根室海峡は、知床半島と国後島に挟まれた幅 25～45km の海域である。その水深は先端部で 2000m を超える一方、半島の基部の海峡は 20m と浅く、その中央部分は湾のように水深が急激に変化している。その海底地形は多様で、様々な海洋生物の生息地となっている。また冬季には流氷が到来し、それを栄養源として豊富なプランクトンがもたらされる。こうしたプランクトンを求め、多くの魚が回遊し、海鳥やクジラ類の貴重な餌資源となっている。

こうした海流や地形の特色から、豊富な海洋資源を有する羅臼海域は、世界の海洋の広範囲を生息域にしているミズナギドリなど多くのグローバルに移動する渡り鳥の中継地となっている。

近年、この海域では観光船によるホエール・ウォッチングが盛んに行われ、シャチをはじめミンククジラ・ツチクジラそしてマッコウクジラが見られる海域として広く知られるようになってきている。一方、海鳥については根室市落石で海鳥に特化したクルーズが年間を通して行われ、羅臼においても海鳥観察ツアーが本州のツアー会社により年に数回行われている。また、ウトロ側では観光船業者や宿泊業そして海鳥研究者と環境省が協同して知床ウトロ海域環境保全協議会を発足させ海鳥を調べ守り利用する活動を行なっている。その中で「海鳥ウィーク」を 7 月下旬に開催している。これらの活動を羅臼海域まで広げられないかと考える人たちもいる。

羅臼海域はウトロ海域よりもさらに多様な海域の環境を有し、北方四島とも隣接している。2016 年の日露首脳会談で北方四島での共同経済活動の開始される事が決まり、その中で観光利用も示唆されている。

2015 年からの調査で沿岸海域については陸上と相泊から半島先端部へは海上から調査している。しかし、ホエール・ウォッチングでマッコウクジラを探すような沖合での調査は不十分である。この海域は沖合の海域で生息するミズナギドリ類やアホドリ類の調査には適した海域である。沿岸から沖合までの海鳥の生息のモニタリングが実行できれば、知床半島全域の海域で調査することができる。そのデータをもとに、グローバルに移動する海鳥を気候変動による海水温の変化などの海洋モニタリングの指標とすることもできる。

調査データを保全への利用と観光船のレクチャーやバードウォッチャーへの情報提供をすることができる。これらが、知床世界遺産の価値を高め、北方四島の観光利用への提言に利用することも可能である。



図-8) 2016年11月17日 漁網のような透明の糸を絡ませたシノリガモ